

屋島の歴史

過去 1300 年にわたって、屋島（「屋根のような島」）は軍事的かつ宗教的な場所で、より最近では観光客を惹きつけてきました。その名が示す通り、元々は四国から狭い水路を隔てた島でした。その立地から屋島は戦略的な場所となり、その要塞化は 720 年に完成した日本書紀で初めて言及されています。その砦は、当時の首都であった明日香（現在の奈良市の近く）を内地侵攻から守るためのネットワークとして、九州と瀬戸内海の両岸に築かれた多くの前哨基地のひとつでした。それから数世紀後の 1185 年、島の東側にある壇ノ浦で、当時敵対していた平氏と源氏の間で屋島の戦いが繰り広げられ、屋島は日本の歴史における重要な転換点の場所となりました。この戦いでは源氏が勝利し、平氏を壊滅させて、初めての武家政権となる鎌倉幕府を後に開府しました。武士による日本の統治は、徳川幕府が 1867 年に崩壊するまで約 700 年間続きました。

屋島で最初の宗教的建造物は、8 世紀まで遡ると言われています。北嶺の中央付近に建っていた千間堂は、現在四国八十八ヶ所巡礼の八十四番札所となっている屋島寺が重んじられたことで間もなく廃寺となりました。伝承によると、屋島寺は四国八十八ヶ所巡礼の創始者と考えられている有名な仏僧「空海（774~835 年）」によって創建されました。この寺は、大阪で八十八ヶ所霊場信仰の試練に関するガイドブックが出版されて、一般民衆の間で噂が広まった 1600 年代半ば以降、とても人気になりました。その結果、来訪者が増えて宿泊や食事の場所に対する需要が生まれ、屋島自体が旅の目的地となりました。屋島の壮大な戦いと敬虔な巡礼者の歴史は、民衆の想像力を掻き立てるとともに、1934 年に日本で初めて指定された国立公園に屋島が含まれる際に大きな役割を果たしました。